

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会  
再生普及行動計画ワーキンググループ（第4回）  
議事要旨

平成16年11月16日（水）18:30～21:00  
釧路地方合同庁舎4階 共用第三会議室

【出席者（敬称略）】

<委員（所属）>

- ・ 大西英一（釧路武佐の森の会代表）
- ・ 近藤一燈美（釧路湿原国立公園ボランティア・レンジャーの会）
- ・ 酒田浩之（ボランティアネットワーク・チャレンジ隊）
- ・ 佐竹直子（ボランティアネットワーク・チャレンジ隊）
- ・ 佐藤吉人（NPO法人釧路湿原やちの会）
- ・ 新庄久志（釧路国際ウェットランドセンター主幹）（座長）

<再生普及小委員会（所属）>

- ・ 高橋忠一（北海道教育大学釧路校 助教授）

<関係市町村（出席者）>

- ・ 釧路市（環境部環境政策課 木村俊宏）
- ・ 釧路町（産業経済課 中野正人）
- ・ 鶴居村（振興観光課 土居孝之）

<釧路湿原再生協議会事務局（出席者）>

- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター（所長 池田敏邦）
- ・ 北海道釧路支庁（地域政策部環境生活課 後藤達彦、藤村朗子）

<ワーキンググループ事務局>

- ・ 環境省東北海道地区自然保護事務所
- ・ 財団法人北海道環境財団

【議事概要】

● 開会

WG事務局スタッフの異動と新担当者の紹介の後に、釧路市から釧路湿原展望台について、昨年  
から展望台リニューアルを関係者が議論しているが、環境の観点からの検討も必要としており、行  
動計画WGメンバーにも検討への参加協力を要請をしたいと申し出があった。

● 議事1 ワーキンググループとしての取り組みの報告

10月に行われていた釧路湿原自然再生協議会の第2期協議会委員募集にあたり、行動計画WGと  
してポスターを作成して22カ所に貼り出した。また、北海道環境財団のメール情報サービスなど  
を利用し委員募集の情報発信を試みた。効果のほどはわからないが、協議会の活動のPRの一環にな  
ったものと思われる。

## ● 議事2 行動計画ワーキンググループホームページの掲載内容についての提案

前回WGでの承認事項に加え、ホームページを新たに立ち上げるに当たり、このWGの検討状況の紹介、湿原での最近の話題やイベント情報を提供するコーナーを設けることについて事務局から新たに提案し、了承を得た。

## ● 議事3 具体的な検討

事務局より本日の検討作業の進め方について説明した後、2グループに分かれてそれぞれが提言8「国立公園の新しい利用形態を考える」と提言9「湿原を訪れる人へのサービスを改善する」について検討した。1時間強のグループ討論の後に、各グループから検討概要を以下のとおり発表した。（グループ討論の成果は別添資料参照）

### ハンノキグループ

提言9に関しては、まず、釧路を訪れた人に情報を提供する総合情報のガイドカウンターを駅や空港、湿原に設置することが必要である。観光産業の重要性を考えれば、太平洋炭鉱閉山対策の予算等が回せるはず。情報提供へのカーナビの活用、ヒーリング効果の売り込み、外国人に対する言葉の問題への対応などについても提案された。こうした取り組みに対しては行政が予算を持つべきであり、国立公園連絡協議会などの連合体にもっと力を持たせることが望まれる。人材育成の問題も大きく、観光や自然ガイドに携わるボランティアや若い人の収入を含めて処遇問題を考えていかなければならない。

提言8に関しては、これまでにないユニークな工夫が必要だと思う。例えば、フィールドで湿原の断面をみせることや湿原展望台でアートを展示することなどである。来た人が長く使いたくなる良いパンフレットを用意することや、パンフレットの企画を統一することも有効である。

### やちぼうずグループ

提言8に関しては、例えば釧路湿原南西部の1周24kmのフットパス構想は実現できそうである。既存の道を活用できるので予算は要らないが、トイレの問題は考えなければならない。ワークキャンプで湿原再生のさわりだけでも体験してもらうこと、間伐材によるログハウスづくりへの参加なども行いたい。北斗で、森に吊り橋をつくることや市街地で観光客も参加できる里山づくりなどもできるのではないか。こうしたアイデアは、湿原に入るだけでなく保全も考えなければならない、それをチェックする機能も必要である。例えば、フットパスの途中でプログラムを通してそれを伝えることなどである。

提言9に関しては、駅や空港に湿原を案内するカウンターが必要である。さらに、こうした公共施設だけではなく、バス会社やレンタカー会社、加えて個々の企業や団体の活動の中でも湿原の情報提供を行ってほしい。このほか、ビジターセンターでの長靴や防寒着などの用具のレンタル、自転車のレンタル、コッタロ湿原へのシャトルバス運行などのアイデアが出された。指定管理者制度を利用してNPOが担うことも一案。

以下、全体討議として自由に討論をした。

- 〈座長〉 フットパス構想は実現の可能性がある。
- 〈委員〉 駅や空港に外国人対応できる人を置けるような可能性はあるだろうか。
- 〈委員〉 行政の負担には英断が必要であろう。
- 〈座長〉 空港もJRも民間であり、行政はそのつなぎの役割をすべきだろう。工夫次第では夢物語ではない。
- 〈委員〉 空港や駅での案内は湿原の入り口であり、ガイド役であるはず。
- 〈委員〉 欧州、豪州などでは、空港や役所の一角にボランティアが常駐し、来訪者に多様な情報提供を行っている。そうした仕組みに学ぶ必要がある。
- 〈委員〉 日光のバス会社など、国内にもボランティアによる案内が併設されている例がある。
- 〈委員〉 釧路でも病院で同様の取り組みがある。
- 〈委員〉 ボランティアの役割を考えるとそれらに要する経費は行政が担うべきである。
- 〈委員〉 韓国の観光地のボランティアによる案内は、町の予算でまかなわれていた。釧路でもそうした対応がほしい。
- 〈座長〉 人の配置や予算を巡る問題は共通の関心、課題である。
- 〈委員〉 国立公園の利用形態を考えるにあたっては、知床、阿寒ともあわせてトータルな取り組みを考えた方がいい。

## ● その他

次回WGは12月13日（月）18:30～21:00に開催することとなった。次回は自然再生に直接関わる提言3～6について検討する予定。検討する形としては、委員の提案により提言3・4と提言5・6の2グループに分かれて行うこととなった。

事務局から、現在事務局が把握している関連行事等を紹介して終了した。